

J H F 理事会議事録

日 時： 2007年10月25日(木) 13:30~17:00

場 所： J H F 事務局会議室（豊島区巣鴨 3-39-4 東都ビル 2F）

1. 議長・署名人及び議事録作成人指名

議長： 荒井健雄 議事録署名人： 菊池守男 下村孝一

議事録作成人： 桜井加代子

2. 定足数確認

出席者：出席【理事】荒井健雄 内田孝也 大沢 豊 菊池守男
下村孝一 松田保子

欠席【理事】狩野智子 城 涼一

【監事】市川 孝 對馬和也

（出席理事6名。今理事会は定足数を満たし成立した）

3. 理事・監事の一言

内田会長： 9月20日空の日に安全祈願等で、航空協会へ1日行って来ました。10月は岡山県でのパラグライディング日本選手権に公式審判員として、4日間フル日程で参加しました。4日間のうち2本成立、タスクとしては短いパイロンの間を行ったり来たりでしたが2本とも素晴らしいレースでした。

菊池副会長： 最近、未解決の案件が表面化しました。そういうことのないよう来月の理事会でアイデアを出したいと思います。

松田常任理事： 12月8、9日のスカイシンポジウムに向けて色々な詰めをいたしました。教本の進捗状況については後程報告します。今菊池さんが言われた、未解決で先送りになった案件については各自で洗い出しをした方がいいかなと思います。

下村常任理事： 私は特にありません。

大沢理事： ハングの大会で選手が一時遭難するという事故がありました。選手からアンケート等をとってよく調査し、再発防止の措置を講じたいと思っています。それからフライヤー会員減少についてのアンケート調査のようなマイナスイメージの記事はトップページに掲載しない方がよいとの声がありました。

議長(荒井理事)： 新しく理事になった方々、また正副会長に対してこれから2年間何をやりたいのか具体的にお聞きしたい。例えば私の場合、これまでPG教本の作成、IPPIカードの推進、口座の自動振替などアイデアを出してきました。そういう具体的な施策についてお聞きしたい。

大沢理事： 確かにアイデアは重要だと思うのですが、それを仕上げなければ意味がありません。

下村常任理事： まずは何をやりたいか明確に看板を掲げることです。それからその達成のために具体的施策を実施する。そうでないと1万5千人をまとめることは不可能です。

議長： JHFはフライヤー会員の長期的減少に直面しています。そういう危機的な状況の中でいろいろなアイデアを出してきました。それらをどこまで実行できたか検証することも大事ですが、新執行部は独自のアイデアを出すことが大事ではないかと思います。

4. 審議事項

第4-1号議案 教員・助教員更新手続き並びに更新講習会の実施について

更新講習会はJHFの根幹に係わる事業。このため理事会では年内実施に向けて教員・スクール事業委員会へ実施案を諮問しており、委員会から別紙のとおり答申があった。

委員会としては、現在進行中のパラグライディング教本の大幅改訂作業が遅れているため当初の予定通り年内実施は無理として、下記のスケジュールを提案してきた。

- | | |
|---------|--|
| 11月中 | 安全性委員会と教員・スクール事業委員会の合同会議
(講習会実施要領/カリキュラム資料作成) |
| 12月初旬 | 教員・助教員講習会実施要領を正会員へ配布する |
| 2008年4月 | 更新講習会を実施する教員検定員を全国から公募し、検定員認定講習会を実施(新テキスト使用) |

委員会案を審議した結果、パラグライディング教本改訂作業が遅れている現状では、スケジュールの見直しは止むを得ない。講習会の実施に当たっては、受講者並びに都道府県連盟の負担にも配慮する必要がある等の意見があった。

その上で2008年には更新講習会が確実に実施されるよう、次の付帯事項を添えて委員会案を承認することを取りまとめた。

1. 教員検定員認定講習会の実施のための予算を総額50万円とし、2007年予算から支出する。
2. 教員検定員認定講習会参加者の旅費を含む都道府県連盟の適正な費用負担について総額50万円の範囲内で検討する。
3. 助教員に対しても教員と一律に更新講習会を義務付けることが現実的かどうか委員会に諮問する。
4. 3.項目の帰趨によっては更新講習会規程の改定を諮問する。

上記について採決の結果、【賛成5 反対0 棄権0】で可決された。

賛成： 内田、大沢、菊池、下村、松田

第4-2号議案 ハンググライディング競技規定の改定

一般フライヤーへの告知が済んでいないため、一旦取り下げられることになった。

第4-3号議案 ポロジメーターの購入について

7月理事会で、無償で借り受けてスクール・クラブ等に貸し出すことを決定したが、期限付き借り入れであったため、一旦これを返還することになった。

今後スクール・クラブ等からの借り入れ希望も増えてくることが予想されるため、JHFと

して新たに購入することを事務局から提案した。

採決の結果、【賛成5 反対0 棄権0】で可決された。

賛成： 内田、大沢、菊池、下村、松田

5. 協議事項

早退しなければならない理事のため順番を変更して協議した。

5-3 JHF ウェブでのマイナス情報の掲示方法について

9月26日付けでJHFウェブサイト/トピックスに、「フライヤー会員減少についてのアンケート調査結果」を掲載した。これに対し、一般フライヤー並びにハンググライディング競技委員会から別紙のとおり、この種のマイナス情報掲載については一定の配慮が必要との意見が寄せられた。

JHFとしては、マイナス情報、プラス情報共公平に取り扱うことが基本方針であるが、一応公表も済んだことなので、情報を隠すということではなく、然るべき場所に移動することにした。

5-1 MPG 教員技能証の正会員推薦の問題

2004年MPG教員検定合格者に対する推薦を巡って京都府フライヤー連盟から提出された要望書の取扱いについての問題。

事実関係

1. 2004年MPG教員検定合格者から正会員の推薦依頼が京都府連に届き問題となる。
(検定試験終了後の推薦依頼であり、かつ京都府連の推薦基準を満たしていなかったため)
その折、京都府連から次の要望書が提出された。
ア. 補助動力委員会へ技能証規程の改善と、その規程制定に伴う現状把握を要望する。
イ. 今回の推薦依頼者に対して、JHF事務局もしくは補助動力委員会より事情を説明し本人が納得し今後もその意欲を失わないよう話合う。
ウ. 独自のMPG教員技能証を廃止し、あくまでPG教員の拡張ライセンスに限定すべき
(ウについては和歌山、兵庫、奈良、徳島各県連連名での要望)
2. 補助動力委員会山崎委員長名で釈明書が京都府連に出状された。
(2004年12月24日付け)
3. これに対し京都府連では納得できないとして、同12月27日付で再質問状を発信。
4. 山崎委員長は検討の後、翌年2月23日付けで京都府連事務局宛、2ページにわたる説明書を送付。
5. 3月総会で山崎委員長は再説明書を送付した旨賀家理事長に口頭で伝える。
6. その後、再説明書が届かないので、賀家理事長は5月24日付で事務局に催促する。
7. しかしながら再説明書は届かず、今回2007. 10. 14付メールでの再確認となった。

事務上の問題点

4. の二回目の説明書がなぜ京都府連に届かなかったか。
(山崎委員長から直接京都府連事務局宛送付された。)
6. の京都府連の催促の時点で、JHF事務局はなぜ事実確認をしなかったのか。

以上事実関係と問題点を確認し、補助動力委員会の報告を待って回答することにした。

5-2 2010年PGアジア選手権の立候補について

6月総会で、四国県連絡会の本年度幹事、愛媛県連門田理事長が2010パラグライディングアジア選手権の誘致についてプレゼンテーションを行った。

開催誘致を実現するには、2008年2月CIVL総会にBIDを提出し承認を得る必要があり、少なくとも12月10日までに必要な書類を揃えてCIVL会長に提出しなければならない。このため、理事会の求めに応じて、門田理事長から別紙のとおり総会後の準備状況について報告書が提出された。

国際大会を成功裏に開催するには、地元の熱意はもとより、必要な予算の確保が重要である。とりわけスポンサー探しなどの程度まで進捗しているか確認する必要がある。

協議の結果、11月理事会へ準備委員会代表者の出席を要請し状況を詳しく検討することになった。

5-4 2008年度事業計画と予算案策定準備について

来年度の収入、特にそのベースとなるフライヤー会員の登録数を把握することがポイントになる。次回理事会で担当者を決めることになった。

6. 報告事項

6-1～3については別紙のとおり、6-4、6-5については担当者から報告した。

- 6-1 現金・預金・郵便振替等残高明細書
- 6-2 フライヤー会員登録・技能証発行実績
- 6-3 フライヤー会員情報データベース（JDC）について
- 6-4 パラグライディング教本改訂作業の進捗状況
- 6-5 JHFレポート発行の進捗状

この議事録が事実と相違ないことを確認し署名捺印する。

議長

(荒井 健雄)

署名人

(菊池 守男)

署名人

(下村 孝一)

議事録作成人：桜井加代子